

認知症と向き合う「幸齢社会」 の実現に向けた稲城市の取り組み

令和5年10月12日

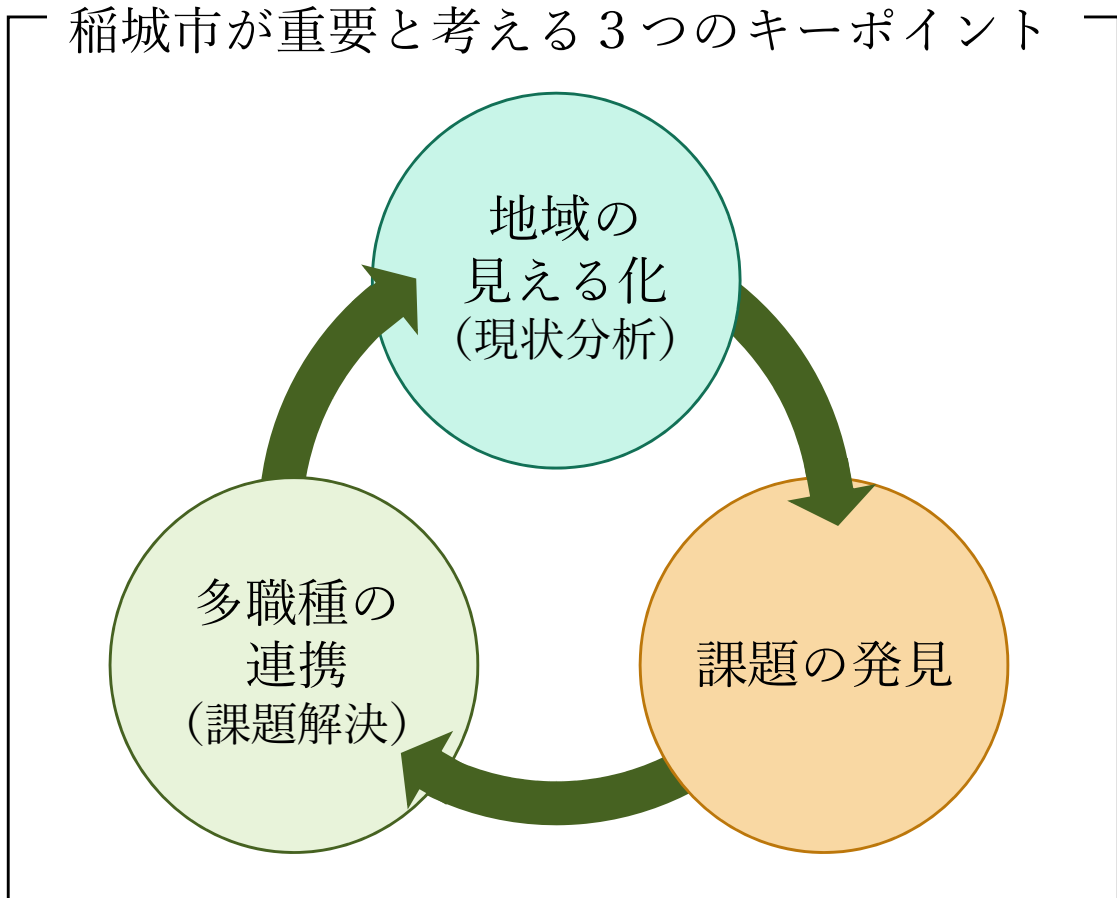
稲城市副市長 石田 光広

稲城市が進める地域包括ケアシステムの展開

- 国のスキーム（事業）をベースに、稲城市独自の工夫を加えながら展開（地域特性を踏まえた稲城市らしい地域包括ケアシステムの深化・推進）



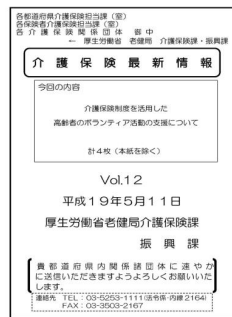
国が考える地域包括ケアシステムの植木鉢の図
 （出典：平成28年3月地域包括ケア研究会報告「地域包括ケアシステムと地域マネジメント」）



稲城市介護支援ボランティア制度の概要

平成17年度稲城市提案
【介護保険料控除】

平成19年度介護保険制度
として実施が可能に！
【ポイント制】



介護保険料控除を活用した高齢者のボランティア活動の促進
一、経緯
二、概要と実施方針

厚生労働省からの通知
介護保険最新情報vol.12

全体の実施スキーム

保険者（稲城市）
地域支援事業（一般介護予防事業）

地域支援事業交付金
（管理委託料）

管理機関
（社会福祉協議会）
・介護支援ボランティアの登録
・評価ポイントの管理、付与等

介護支援ボランティアの
受け入れ機関等

③スタンプ
押印（通年）

②介護支援
ボランティア
活動（通年）

介護支援
ボランティア

⑤評価ポイント
活用の申出

①介ボラ登録、活動先紹介
と手帳交付

④希望により、活動実績に
応じて評価ポイントを付与

⑥介護支援ボランティア
ポイント転換交付金

制度設計時に直面していた課題と求められた施策

【直面していた課題】

- ・団地地区を中心に、地域のコミュニティの力を高める必要が生じてきた。
- ・社会参加活動への参加を望む高齢者が増えてきている。
- ・介護保険料が高騰する。

【求められた施策】

- ①高齢者自身の介護予防につながる社会参加活動（自助）を支援すること。
- ②元気な高齢者による介護者等への支援ボランティア（互助）を褒賞・奨励すること。
- ③上記の結果、地域支援事業費、介護給付費等の費用を直接・間接的に抑制すること（給付費等の抑制）。

【稲城市の新たな地域支援事業】

「介護支援ボランティア制度」

- 高齢者の社会参加を支援し、介護予防の効果を期待するもの。
- 元気な高齢者を増やす取り組み。

制度設計のポイント

- ①**制度は手段。目的は地域課題の解決。しっかりと明確に!**
 - ・高齢者の社会参加を後押しして、介護予防! 実質的な保険料負担の軽減。
 - ・結果として給付費を抑制。
- ②**当事者（高齢者）の意思を尊重**
 - ・登録、スタンプ集め、ポイント付与、ポイント還元など、本人の申請制。
 - ・制度見直しなどは、アンケート等で当事者の意見を聞いて、決定。
 - ・介護支援ボランティア登録者アンケートを毎年実施。
- ③**関係者の意見を尊重**
 - ・社会福祉協議会との制度検討、ボランティア活動の実態調査の実施。
 - ・制度開始前のボランティア関係者、介護保険事業者との意見交換会の開催。
 - ・受入機関、社協、市で意見交換会を毎年実施。
- ④**制度は、分かりやすく、事務量や経費などの負担を最小限に**
 - ・ボランティア手帳に、要綱、ポイント台帳、ボランティアの心得、ボランティア保険の周知、申請用紙、受入機関の連絡先等、全て掲載。
 - ・受入機関に活動実績報告を求めず、手帳で本人管理。
 - ・ボランティア手帳は、社協の手作り、スタンプは、簡易なゴム印。
- ⑤**これまである仕組みを活用**
 - ・社協のボランティアセンターのボランティア登録やコーディネート機能を活用。

保険料負担軽減のスキーム

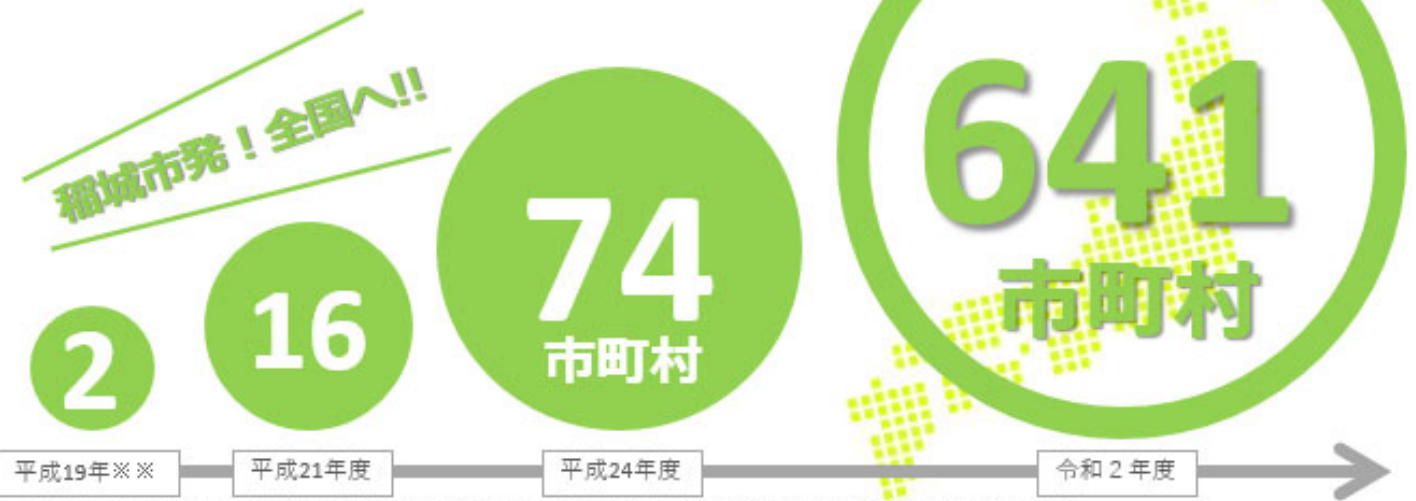
- ①介護支援ボランティア活動でスタンプ押印をもらう。
- ②スタンプを集めてポイントに換える。
- ③申請でポイントの交付金（最大5,000円）を受け取る。

実質的な保険料負担の軽減



令和4年度の実績等

- [介護支援ボランティア登録者数]
735名（高齢者数の3.59%）
（転出・死亡による資格喪失者を除く。）
- [ポイント獲得者]
179人
（令和3年度中に10回以上の活動）
- [ポイント費用]
514,000円
- [受け入れ機関等]
25団体
- [事業費（社協への管理委託料）]
1,005,812円
（事務費等+ポイント費用）



※出典：「介護予防・日常生活支援総合事業等(地域支援事業)の実施状況(令和3年度実績分)に関する調査」
 **平成19年9月に「稲城市」で全国初の制度としてスタートし、11月に「千代田区」で制度が始まりました。

絵本読み聞かせボランティアの育成による認知症予防事業（稲城市）

経緯

- 稲城市では、認知症予防事業として料理や旅行を計画する活動や有酸素運動を行うプログラムを実施し、自主的な活動を継続するよう促してきたところ。しかし、活動の継続に課題があり、よりよいプログラム等を模索していた。
- 東京都主催の研修で多世代交流や社会貢献を進めながら認知症予防に資する「りぷりんと」を知り、プログラムを開発、実施する東京都健康長寿医療センター研究所に相談し、令和2年度から稲城市でも実施。

シニアの絵本読み聞かせボランティア「りぷりんと」

世代間交流を通じた高齢者の社会貢献に関するモデル研究
Research of Productivity by Intergenerational Sympathy

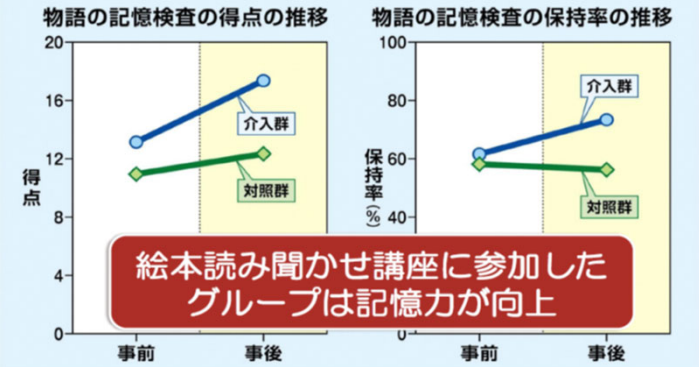


- 絵本の読み聞かせボランティアを養成
- 幼稚園・保育園・小学校・学童・中学校で読み聞かせ実施

東京都健康長寿医療センター研究所
（東京都老人総合研究所）



絵本の読み聞かせ講座、記憶機能への効果



東京都健康長寿医療センター研究所作成資料より

概要

- 参加者の募集を兼ね、「認知症予防講演会とりぷりんと説明会」を実施
 - 場所：稲城市商工会中会議室
 - 日時：令和4年7月26日（火）10時～11時30分
 - 講師：東京都健康長寿医療センター
- 令和4年8月より、絵本読み聞かせ方法の習得に関する講座の実施（全12回、1回2時間、週1回）
 - 8月30日（火）～11月15日（火）午後1時半～3時まで
 - 講座の開始前と修了後に健康チェックを実施
 - 修了者 14名（女性14名）、平均年齢72.7歳（65歳～86歳）
- 令和4年11月より自主活動に向けたフォローアップ（全3回）
- 計37名が修了し、多くは自主グループ「りぷりんと稲城」に参加
- コロナ禍で活動場所は限られたが、保育園内にある地域交流の場や介護施設、小学校等で読み聞かせしている。



本人ミーティング型の認知症カフェの運営 (稲城市)

立ち上げまで

- 稲城市では認知症がある人の家族（介護者）の声を聴く機会（家族会）や居場所（デイサービス）はあるものの、本人の声を聴く機会の不足を認識しながら、平成30年4月より認知症地域支援推進員とともに認知症カフェの開催について検討を開始。
- 近隣市の認知症カフェの見学等を重ねる中で、本人の声を聴く機会の重要性を再認識し、稲城市の認知症カフェは「本人と家族のピアサポートを主たる目的としたタイプ」にすることとし、認知症の人本人が、自身の希望や必要としていること等を本人同士で語り合う場にする事とした。
- 令和元年度、認知症カフェを運営する市外NPO法人の支援のもと「オレンジカフェ矢野口」を開始。令和2年度から認知症地域支援推進員を中心に進行、運営。令和4年度から2カ所目「オレンジカフェ向陽台」を開設。いずれも開設時に認知症疾患医療センターの協力のもと、新設の周知を兼ねて認知症やオレンジカフェの勉強会を開催した。

オレンジカフェ矢野口

- 場所は「ふらっとcaféやのくち」元喫茶店（レストラン）を社会福祉法人が借りるスペース（京王よみうりランド駅から徒歩7分）
- 毎月、第1・3木曜日、13時30分～15時30分。

話題の例

- ◆ もの忘れ、医師との関係、受診
- ◆ 自分らしく生きること
- ◆ 生活の知恵、工夫
- ◆ 自身の変化、最近気になること
- ◆ 買物や困りごと、外出
- ◆ 支援してもらふこと、介護保険
- ◆ 家族との関係

- ◆ 運転免許の返納
- ◆ GPS、電話、パソコンの利用
- ◆ これまでの趣味や仕事、子育て
- ◆ 野菜や植物を育てること
- ◆ 続けていること、楽しみ
- ◆ 認知症関連の新聞記事について
- ◆ 火の取り扱い

ふらっとcaféやのくち

話し合っている様子



オレンジカフェ向陽台

- 場所は市が都民住宅の一室を借り、NPO法人の活動に活用されている「生活支援サービス拠点向陽台」
- 毎月、第2・4水曜日、13時30分～15時30分。

話題の例

- ◆ 認知症当事者の本の感想
- ◆ 年齢を重ねた日々の心がまえ
- ◆ 日常生活で習慣づけている事
- ◆ 季節を感じさせるもの・行事
- ◆ テレビや新聞で気になったこと
- ◆ 家族と嬉しかったできごと
- ◆ 亡くした家族との思い出

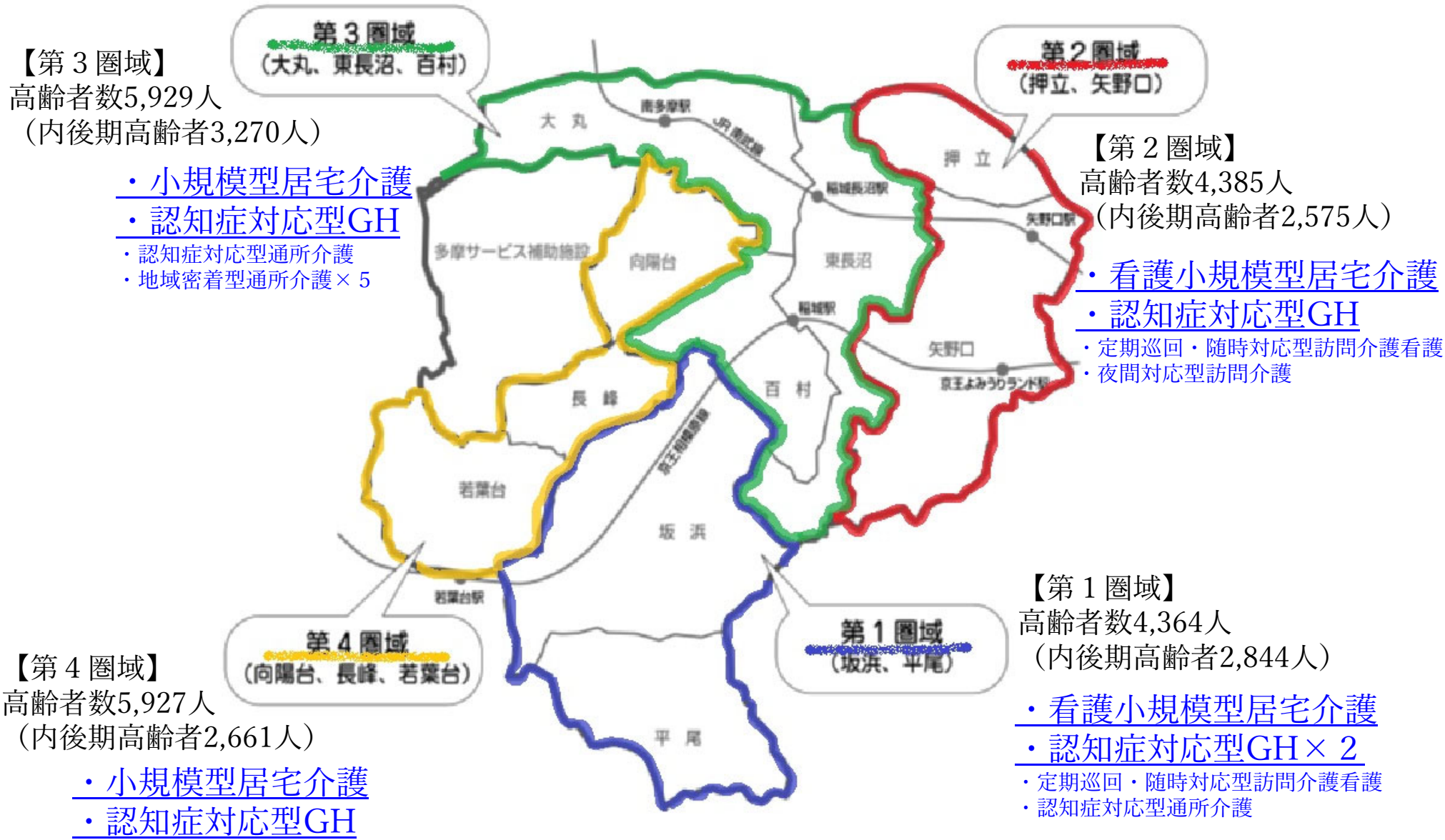
- ◆ 仕事をしていた時や子育てのこと
- ◆ 介護保険、地域で利用できる資源
- ◆ デイサービスで嬉しかった対応
- ◆ 老人会でのイベントのこと
- ◆ 今でも忘れずにいる幼い日のこと
- ◆ 災害時の備え、近所の人との関わり
- ◆ スタッフへお料理のアドバイス

公営住宅の一室を活用

ご本人の話に耳を傾けます



稲城市の各圏域にGH及び小多機（看多機）を計画的に整備



各圏域に、認知症対応型GH及び小規模多機能型居宅介護又は看護小規模多機能型居宅介護を計画的に整備しており、現在2巡目に入っています。

※小文字は認知症対応型GH及び小多機（看多機）以外の地域密着型サービス。高齢者数等は令和5年8月1日時点。